

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	見えないだけ （1時間） ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)	1	1 詩を通読する。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 2 好きな言葉や表現を発表する。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)
1 広がる学びへ				
4月	アイスプラネット（4時間） ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)	1 2 3 4	1 作品を通読する。 2 「ぐうちゃん」について整理する。 3 「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。 4 「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。 ・「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。(学習③)	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)
4月	【聞く】問いを立てながら聞く（1時間） ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度))	1	1 「友達の提案」を聞き、要点をメモする。 ・意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く。 2 メモを基に、意見や根拠について検討する。 ・グループ内の友達と意見や根拠の適切さについて話し合う。 3 「上達のポイント」を読み、学習を振り返る。 ・意見とその根拠について、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞くことができたか。 ・根拠の客観性や、意見と根拠の結び付きを確かめることができたか。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【態】進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとしている。
5月	枕草子 【書く】自分流「枕草子」を書こう（3時間）(読②書①) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げることができ	1 2 3	1 「枕草子」を朗読し、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる。 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を朗読する。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 3 自分流「枕草子」を書く。 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。	【知・技】現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	る。(思・判・表C(1)オ)			
5月	<b>情報整理のレッスン</b> <b>思考の視覚化 (1時間)</b> ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	1	1 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。 2 問題1～3に取り組む。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ)
5月	<b>多様な方法で情報を集めよう</b> <b>職業ガイドを作る (5時間)</b> ◎情報と情報との関係の表し方を理解し使うことができる。 (知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、題材を決め、材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	1 2 3 4 5	1 調べる職業を決め、情報を集める。 ・職業について知りたい項目や内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。 2 集めた情報を分類・整理する。 3 紙面構成を考える。 4 下書きし、紙面を作る。 ・下書きをして、推敲し、清書する。 5 完成した作品を読み合い、感想を伝え合う。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)
5月	<b>漢字 1 熟語の構成</b> <b>漢字に親しもう 1 (1時間)</b> ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、450字程度までの漢字を読むことができる。 (知・技(1)ウ)	1	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 2 練習問題に取り組む。 3 P40「漢字に親しもう1」に取り組む。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ)
<b>2 多様な視点から</b>				
5月	<b>クマゼミ増加の原因を探る (4時間)</b> ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) <b>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b>	1 2 3 4	1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「前提」に書かれた内容を確認し、筆者が三つの仮説の前に、この部分を置いた理由を考える。(学習①-2) 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・グラフや模式図、写真などを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考える。(学習②-2) 4 考えたことを話し合う。 ・筆者が検証によって否定された仮説を挙げた理由や三つの仮説をこの順序で並べた理由を考え、グループで話し合う。(学習③)	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) <b>【態】</b> 積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p>	3	<p>・ニュースがどのように編集されているかについて、具体例(編集の例①～③)を基に考える。</p>	
<b>3 言葉と向き合う</b>				
7月	<p><b>短歌に親しむ</b></p> <p><b>短歌を味わう</b></p> <p>【書く】短歌を作ろう</p> <p>(4時間)(読②書②)</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3-4</p>	<p>1 P68「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>・情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(学習①)</p> <p>2 短歌についてまとめる。</p> <p>・短歌の特徴についてまとめる。(学習②-1)</p> <p>・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。(学習②-2)</p> <p>・好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。(学習②-3)</p> <p>3 P72「短歌を味わう」を読み、内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。</p> <p>4 P73「短歌を作ろう」に取り組む。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ)</p>
7月	<p><b>言葉の力(2時間)</b></p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(知・技(3)エ)</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>1 全文を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 文章を要約して、内容を捉える。(学習①)</p> <p>・三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。</p> <p>3 筆者の考え方について話し合う。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ)</p>
7月	<p><b>言葉 1 類義語・対義語・多義語(2時間)</b></p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p>	1-2	<p>1 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について興味をもつ。</p> <p>2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。</p> <p>・「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
7月	<b>言葉を比べよう</b> <b>もっと「伝わる」表現を目ざして</b> <b>（1時間）</b> ◎類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ）	1	1 言葉を分類して，類義語を集める。 ・教科書にある言葉を，「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。 ・「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び，類義語を集める。 2 類義語を比較し，わかったことを話し合う。 ・集めた類義語を使って文を作り，そこからわかった違いをまとめる。 3 P81「対義語を考える」に取り組む。	<b>【知・技】</b> 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ）
<b>読書生活を豊かに</b>				
7月	<b>読書を楽しむ（1時間）</b> <b>▼読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切に，考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</b>	1	1 教材文を通読し，さまざまな読書活動を知る。 2 「本の紹介合戦」，「読書ポスター」，「本のリスト」の中から，夏休みに行う活動を選ぶ。 3 活動の内容に沿って，見通しを立てる。 4 グループごとに活動を行い，感想を発表し合う。	<b>【態】</b> 本や文章などには，さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り，今までの学習を生かして，本の魅力や感想を共有しようとしている。
7月	<b>翻訳作品を読み比べよう</b> <b>星の王子さま</b> <b>読書案内 本の世界を広げよう</b> <b>（1時間）</b> <b>▼言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，思いを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</b>	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し，学習の見通しをもつ。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」や読書コラムを読み，「翻訳」の意味や，翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。	<b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） <b>【態】</b> 進んで表現の効果について考え，学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 人間のきずな				
9月	<b>ヒューマノイド （4時間）</b> ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)	1 2 3 4	1 全文を通読する。 2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 3 過去と現在を結びついて、登場人物の言動を解釈する。 4 作品を読んで考えたことを語り合う。	<b>【知・技】</b> 登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。( (1)オ) <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)
9月	<b>字のない葉書 （3時間）</b> ◎観点を明確にし、文章の構成や効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) <b>▼言葉がもつ価値を認識し、考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b>	1 2 3	1 全文を通読する。 2 二つの思い出を整理する。 ・二つの思い出の内容を整理する。(学習①-1) ・筆者がこの随筆を書いた時点を、叙述を基に考える。(学習①-2) 3 表現に着目して、人柄や心情について読み取る。 4 父親に対する「私」の思い出について考える。	<b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) <b>【態】</b> 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
9月	<b>聞き上手になろう</b> <b>質問で思いや考えを引き出す （1時間）</b> ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 インタビューの準備をする。 2 インタビューを行う。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、インタビューを行う。	<b>【知・技】</b> 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。( (1)ア) <b>【思・判・表】</b> ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)
9月	<b>表現を工夫して書こう</b> <b>手紙や電子メールを書く （3時間）</b> ◎敬語の働きを理解し使うことができる。(知・技(1)カ) ◎根拠の適切さを考え、考えが伝わる文章になるように工夫できる。(思・判・表B(1)ウ)	1 2-3	1 手紙と電子メールを比較し、活用場面を考える。 ・教科書の例を参考に、手紙と電子メール、それぞれの特徴を表にまとめる。 2 伝えたい内容を決め、通信手段を選ぶ。 3 手紙や電子メールを書く。 ・通信文を書き、気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合う。	<b>【知・技】</b> ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。( (1)カ) <b>【思・判・表】</b> 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)
9月	<b>【推敲】表現の効果を考える （1時間）</b> ◎敬語の働きを理解し使うことができる。(知・技(1)カ) ◎表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。	1	1 木本さんの手紙の下書きを読み、適切な文字や表記に書き改める。 2 ……線部㊦㊧について、より効果的な表現を考える。 3 学習を振り返る。 ・どのような点に着目して、手紙を推敲したか。	<b>【知・技】</b> 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。( (1)カ) <b>【思・判・表】</b> 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	(思・判・表B(1)エ)			
9月	<b>言葉 2 敬語 (1時間)</b> ◎敬語について理解し、使うことができる。(知・技(1)カ)	1	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)
10月	<b>漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう 3 (1時間)</b> ◎類義語と対義語について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)	1	1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解する。 2 教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。 3 P121の練習問題とP122「漢字に親しもう3」に取り組む。	【知・技】 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)
<b>5 論理を捉えて</b>				
10月	<b>モアイは語る ―地球の未来 (4時間)</b> ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識し、考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 2 3 4	1 全文を通読する。 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(学習①-1) ・筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。(学習①-2) 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。(学習②-1) ・イースター島の事例を示した理由について、筆者の主張との関係に着目して考える。(学習②-2) 4 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。((1)エ) 【態】粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
10月	<b>思考のレッスン 2 根拠の吟味 (1時間)</b> ▼言葉がもつ価値を認識し、考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 教材文を読み、根拠を吟味する方法を理解する。 2 問題1, 2に取り組む。 3 学習を振り返る。	【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10月	<b>根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く (4時間)</b> ◎情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	1 2	1 課題を決め、分析する。 ・社会生活の中から課題を決める。 ・表などを使い、観点ごとに長所と短所をまとめる。 ・友達どうして整理した内容を見せ合い、助言し合う。 2 立場を決めて考えをまとめる。 ・賛成・反対の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 3 反論を想定して、構成を考える。 ・反論を想定して、それに対する意見を考える。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	3 4	4 意見文にまとめる。 5 意見文を友達と読み合う。	
10月	漢字に親しもう 4 (1時間) ▼言葉がもつ価値を認識し考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10月	【討論】異なる立場から考える (1時間) ◎互いの立場を尊重することができる。(思・判・表A(1)オ)	1	1 テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読む。 2 賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考える。 3 学習を振り返る。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)
10月	立場を尊重して話し合う 討論で多角的に検討する (4時間) ◎情報と情報との関係を理解できる。(知・技(2)ア) ◎互いの立場を尊重して話し合い、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識し考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1  2  3-4	1 討論のテーマを決め、情報を集める。 ・地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを探す。 ・広く情報を集め、整理する。 2 立場を決めて、考えをまとめる。 ・自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。 ・異なる立場の人の考えを予想し、それに対する答えを考える。 3 グループで討論する。 ・グループを作り、討論を行う。 4 討論を振り返る。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
11月	音読を楽しもう 月夜の浜辺 (1時間) ◎語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩の構成などを考えることができる。(思・判・表C(1)エ)	1	1 全文を通読する。 2 詩を声に出して読む。 3 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 4 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) 【思・判・表】詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)
いにしえの心を訪ねる				
11月	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語 (1時間) ◎古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。	1	1 「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。 2 「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。 3 冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 4 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージをもつ。 5 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ)



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	(知・技(3)イ)			
11月	<b>扇の的 ――「平家物語」から (3時間)</b> ◎古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎登場人物の言動の意味などについて考え、解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)	1 2 3	1 全文を通読する。 2 「平家物語」の冒頭部分と「扇の的」を繰り返し朗読する。(学習①) 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見守る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考え、話し合う。(学習②-1) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 5 学習を振り返る。 ・古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたかを発表する。	<b>【知・技】</b> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)
11月	<b>仁和寺にある法師 ――「徒然草」から [書く] 人物の特徴を捉えて論じよう (3時間) (読②書①)</b> ◎古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)	1 2 3	1 全文を通読する。 2 「徒然草」の冒頭部分と「仁和寺にある法師」の原文を朗読する。(学習①) 3 本文を読み、内容をまとめる。 4 法師と同じような勘違いをした経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 6 人物の特徴を捉えて、文章にまとめる。	<b>【知・技】</b> ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) <b>【思・判・表】</b> ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)
11月	<b>漢詩の風景 (3時間)</b> ◎作品を朗読し、古典に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎観点を明確にして漢詩の構成や表現の効果を考えることができる。(思・判・表C(1)エ)	1 2 3	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 漢詩の特徴を生かして朗読する。(学習①) 3 解説を手がかりに、漢詩を読み味わう。(学習②) 4 好きな漢詩を選び、その理由を伝え合う。	<b>【知・技】</b> 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) <b>【思・判・表】</b> 観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)
<b>7 価値を語る</b>				
12月	<b>君は「最後の晚餐」を知っているか 「最後の晚餐」の新しさ (4時間)</b> ◎情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や論理の展開、表現の効果を考えることができる。(思・判・表C(1)エ)	1-2 3 4	1 全文を通読する。 2 「君は『最後の晚餐』を知っているか」の内容を捉える。 ・筆者が「最後の晚餐」を「かつこいい」と思った理由について、文章中の言葉を使って簡潔にまとめる。(学習①-2) 3 文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。 4 考えたことを文章にまとめる。(学習③)	<b>【知・技】</b> ・情報と情報との関係について理解している。((2)ア) <b>【思・判・表】</b> ・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	<b>魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く（２時間）</b> ◎語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎表現の工夫と効果、改善点が理解できる。（思・判・表B(1)オ）	1  2	1 作品を鑑賞する。 2 表現の効果を考える。 3 鑑賞文を書く。 4 文章を読み合い、意見交換をする。 5 学習を振り返る。	<b>【知・技】</b> 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） <b>【思・判・表】</b> ・自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（B(1)オ）
12月	<b>漢字に親しもう５（１時間）</b> ▼言葉がもつ価値を認識し、考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	<b>【態】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	<b>文法への扉２（２時間）</b> ◎文の構成について理解することができる。（知・技(1)オ）	1-2	1「活用」の意味や用語について理解する。 2 「用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。	<b>【知・技】</b> 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。（(1)オ）
<b>読書に親しむ</b>				
12月	<b>研究の現場によこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 クモの糸でバイオリン（１時間）</b> ▼言葉がもつ価値を認識し、思いを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）	1	1 「研究の現場によこそ」を通読する。 2 「クモの糸でバイオリン」を通読する。 3 感想を伝え合う。 4 P191「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	<b>【態】</b> 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 表現を見つめる				
1月	<b>走れメロス</b> <b>【書く】作品の魅力をまとめ、語り合おう（6時間）（読⑤書①）</b> ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠の適切さを考えて、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） <b>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</b>	1-2   3-4          5-6	1 全文を通読する。 2 作品の設定と構成を押さえる。 ・人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。（学習①） 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭から「メロス」が王城を出発する場面までで、「メロス」と「王」はどんな人物として描かれているかを考える。（学習②-1） ・村から刑場に向かう途中で、「メロス」の考え方や心情は、どんな場面でどのように変化しているかを考える。（学習②-2） ・刑場で「王」の人物像は何をきっかけにどう変化したかを考える。（学習②-3） 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。（学習③） 5 学習を振り返る。	<b>【知・技】</b> 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） <b>【態】</b> 粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
1月	<b>漢字に親しもう6（1時間）</b> <b>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</b>	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	<b>【態】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
1月	<b>文法への扉3 一字違いで大違い（2時間）</b> ◎文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。（知・技(1)オ）	1-2	1 P215の導入や解説を読み、付属語の働きについて考える。 2 P244文法3「①付属語」を読み、付属語の種類について理解する。	<b>【知・技】</b> 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。（(1)オ）
2月	<b>構成や展開を工夫して書こう</b> <b>「ある日の自分」の物語を書く</b>	1	1 これまでに学習してきた物語や小説を振り返る。 ・作品の設定や構成、登場人物の心情の変化について確かめる。	<b>【知・技】</b> 話や文章の構成や展開について理解を深めている。（(1)オ） <b>【思・判・表】</b>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>（４時間）</p> <p>◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。（知・技(1)オ）</p> <p>◎段落相互の関係をなどを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ）</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>2 題材を考える。</p> <p>・生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選ぶ。</p> <p>3 物語の設定とあらすじを考える。</p> <p>4 構成や展開を工夫して物語を書く。</p> <p>・P218「構成の例」を参考に、起承転結の流れで構成する。</p> <p>5 友達が書いた物語を読み、助言し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係をなどを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。（B(1)イ）</p> <p>・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（B(1)オ）</p> <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。</p>
2月	<p>言葉3 話し言葉と書き言葉（２時間）</p> <p>◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。（知・技(1)イ）</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。</p> <p>2 音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。</p> <p>・同音異義語の伝え方を理解する。（話し言葉）</p> <p>・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。（書き言葉）</p>	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。（(1)イ）</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。</p>
2月	<p>漢字3 送り仮名（２時間）</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、450字程度までの漢字を読むことができる。（知・技(1)ウ）</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。</p> <p>2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。</p> <p>3 P223の練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）</p>
2月	<p>国語の学びを振り返ろう</p> <p>「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る（５時間）（話聞②書③）</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることがで</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3-4</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対話を通して考える。</p> <p>2 コピーにまとめる。</p> <p>・自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。</p> <p>3 コピーの説明を書く。</p> <p>・そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。</p> <p>4 クラスで共有し、交流をする。</p> <p>・作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説の仕方について、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。（A(1)オ）</p> <p>・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（B(1)オ）</p> <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かしてコピーを作る</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	きる。(思・判・表A(1)オ)	5	<b>5</b> 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・１年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。</li> <li>・伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。</li> </ul>	うとしている。
3月	<b>鍵（２時間）</b> ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩を読んで理解したことや考えたことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) <b>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b>	1            2	<b>1</b> 詩を通読する。 <b>2</b> 詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。 <b>3</b> 表現の意味を考える。 ・詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。 <b>4</b> 作者のものの見方について語り合う。 ・「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達を語る。	<b>【知・技】</b> 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) <b>【態】</b> 進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
<b>振り返り</b>				
3月	<b>学習を振り返ろう</b> <b>（３時間）（読①話聞①書①）</b> ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)	1  2  3	<b>1</b> P263—266の問題に取り組む。 <b>2</b> P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 <b>3</b> 振り返る。	<b>【知・技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</li> <li>・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</li> </ul> <b>【思・判・表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</li> </ul>